

# 会 報

平成21年9月15日

# てんりゅう



## 「うなぎに驚くウナギヌ」

いくつもの花や緑を組み合わせ、その色合いや特性を生かしながらモザイク状・幾何学状に配置し、形を作りあげた作品を「モザイカルチャー」と呼びます。

出典：日本トピアリー協会

会報てんりゅう 第95号

(社)天竜建設業協会 浜松市天竜区二俣町鹿島491-5 ☎(053)926-1562  
編集・発行 広報委員会 題字 秋山錠介 FAX (053)925-6468  
電子メールアドレス tenryu@aqua.ocn.ne.jp  
ホームページ <http://www.tenkenkyo.net/>

## 特集

## 浜名湖立体花博

浜名湖モザイクカルチャー世界博2009

―開催準備中の現場を見学して― 道林尚人

8月21日、夏真っ盛りの暑い中、広報委員の一員として9月19日から開催される浜名湖モザイクカルチャー2009浜名湖立体花博の現場見学を行いました。



説明を聞く広報委員

この博覧会は、浜松フラワーパークを会場として行われ、25カ国・

地域の97都市・団体から91作品の  
出展が予定されています。

そもそもモザイクカルチャーって何？という基本的な疑問からさまざまな説明を受けました。

モザイクカルチャーというのは、モザイク(幾何学模様)とカルチャー(文化)の造語で、金属の骨組みに土を詰め、花・緑を色合いや特性を生かして植えつけて、絵画や彫刻のように平面的、立体的に形作るアート作品のこと。

美しいだけでなく、意外性のある空間デザインが特徴ということです。



モザイの製作(土詰め作業)

フランスの庭園などで行われていた手法がカナダに広まり、そこで幾何学的に、また芸術的に発展し、現在のモザイクカルチャーとなったようです。

博覧会としては2000年、2003年はカナダ、前回の2006年は上海で開催され、今回は浜松市が主催となり浜名湖モザイクカルチャー世界博2009協会が運営に当たっています。

実際に準備中の会場内に入ってみると、国内外からの大勢の人が働いていました。その数およそ400人。カナダ、スペイン、フ

ランス、中国、韓国、ペルー、アメリカ・・・そして国内の業者が30社以上。

昼休みともなると、休憩所ではいろいろな言葉が飛び交い大変にぎやかだそうです。

一番最初に目に入ってきたのはカナダ(モントリオール市)出展のモザイクです。

きれいに刈上げた広い芝の敷地を草原に見立て、馬が駆ける姿を雄大に表現しています。まだ製作途中で、カナダの庭師(?)さん達が緑の植え込みなどの作業に汗を流していました。



製作中のモントリオール市モザイク



真つ赤に染まった背中を見ると、日本の夏はカナダの人にはきついだろうなあ、と要らぬ心配をしてみします。

そこから、会場内を歩いて行くとなん数々の作品が展示され、あるいは製作されていました。

その中でも筆者が一番圧巻だと思ったのは、中国北京市のモザイです。まだ製作真つ盛りで、実に40人以上の中国人が一か所に集まって働いていました。



中国北京市作品の製作状況

その作品はいかにも中国らしく、大きく広がりを感じるものでした。

完成するとどのように見えるのだろうか？と想像を掻き立てられるものです。

その他にも、地元浜松市や静岡市のモザイもその市の特徴をよく表し、なるほど！と感じられる大きな作品です。

あまり、作品の内容を知ってしまふと実際に見た時の驚きが半減してしまふと思いますが、それほどにしておきますが、これから先、花や緑が成長し、色鮮やかになった時のモザイを見るのが楽しみだと思いました。

作品以外にも、身近な博覧会として感じられる点もいくつかありました。



天竜森林組合製作の木製説明台

地元、天竜森林組合製作のモザイの説明用の木製台や木製の塀。地元ガールスカウトの参加。多数のボランティアの協力。

博覧会本番には500人以上のボランティアが現地で、水やりや、花がら積み、ゴミ拾い、通訳などに当たるといふことです。

そして、観覧通路をバリアフリーに変更したり、目の不自由な方のためにも、触れるモザイの展示も計画したりと、主催者側の様々な配慮がうかがえます。

残暑厳しい中、花や緑の水やりなど毎日の手間が大変だと思いましたが、その苦勞を思いはかつて作品(モザイ)を見ると、また一味違った趣があると思います。

金曜から日曜までは夜9時まで開園し、ライトアップされるといふことです。

暇を見つけて、ぜひこの新しいモザイカルチャーを体験してみてください。



## かんとくさん



春野地域自治センター  
地域生活課 主任  
大畑 雅司

平成17年7月1日、12市町村が合併して、新しい浜松市が誕生しました。

新しい浜松市は、自然豊かで美しい環境と都市部が共存した魅力あふれる都市となりました。そして、平成19年4月1日浜松市は政令指定都市へと移行しました。

市域面積のおよそ6割を占める天竜区は、中央を流れる天竜川や天竜美林など、豊かな自然と森林資源に恵まれている中山間地域であり、市民にやすらぎを与える場として重要な役割を果たしています。

この様な魅力ある自然環境の中で私は、現在森林関係の現場を担当しております。まだまだ未熟ではありますが、日頃現場等でお世話になっております皆様方のご指導を受けながら、技術向上に努めたいと思いますので今後ともよろしく願ひいたします。





## 三遠南信自動車道

Y・I

三遠南信自動車道は、静岡・愛知・長野の3県を結ぶ高規格幹線道路です。

目的としては、地域の交流、産業の振興、災害時における輸送などとされます。

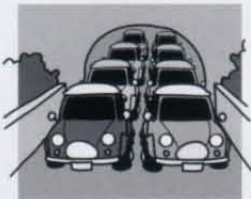
17年前に静岡県側で草木トンネルの施工、2年後に開通。

当初は自動車専用道路でしたので歩行者、自転車、125cc以下のバイクは通行できませんでした。

しかし、今夏、飯田市へ草木トンネルを通行し帰省した友人が「トンネルの中に歩道が出来て狭くなった」と言っていました。

私も詳しくはわかりませんが、この草木トンネルは三遠南信自動車道としては地盤が脆弱の為ルートの変更になったそうです。

一般道路となった草木トンネルは、国道152号から青崩峠を迂回する兵越峠へのバイパス機能として、これからの地域の生活道路と活用される事でしょう。



安全指導員 (株)森下組 柏崎圭亮

日頃、現場の安全管理には、格別な配慮をしていたが、大変有難く感じています。

今まで私がパトロールをして感じたことの一つをとりあげさせていただきます。

天竜地区は御承知のように緑で囲まれた山間地であります。町場の工事と違い、平らな部分が少なく、そのため重機足場が大変不安定な現場が多く見受けられます。

残土の搬出においても、ダンブトラックが使用出来ずに不整地運搬車が活用されている現場も多いと思います。下記にもあ

りますが、1t以上の不整地運搬車の運転には技能講習修了者が必要となります。不整地運搬車の運転は危険を伴う事が多いので、必ず技能講習修了者が運転するように安全管理の徹底をお願い致します。尚、不整地運搬車による災害防止については次の点に気をつけて作業してください。

- ①作業計画の作成、誘導者の配置、移送中の転落防止措置、点検及び修理中に行うべき措置、転倒又は転落を防止する措置については、車両系建設機械と同様の措置を講じる。
- ②最大積載量が1t以上の不整地運搬車は、技能講習修了者に、1t未満の不整地運搬は、特別教育修了者等に運転させる。
- ③最大積載量が5t以上の不整地運搬車に荷の積卸し作業等を行うときは、荷台上の荷の上に安全に昇降するための設備を設け、墜落による危険を防止するための保

護帽を着用させる。

- ④一つの荷の重量が100kg以上のものの積卸し作業を行うときは、作業指揮者を選任する。
- ⑤損傷等がある繊維ロープを荷掛けに使用しない。
- ⑥荷をおろす作業を行うときは、中抜きをさせない。
- ⑦あおりのない荷台には、作業者を乗車させて走行させない。

あおりのある荷台に作業者を乗車させるときは、荷の歯止め、滑止め等をさせる。

- ⑧点検基準により作業開始前点検・月例自主検査及び特定自主検査(2年に1回)を実施し、その結果と整備状況を記録する。
- ⑨不整地運搬車は、特定自主検査済の検査標章がはりついているものを使用する。

これから、繁忙期に入りますが、一人一人が心に余裕を持ち、ゼロ災で年越し、ゼロ災で新年度を迎えられる事を心よりお祈り致します。

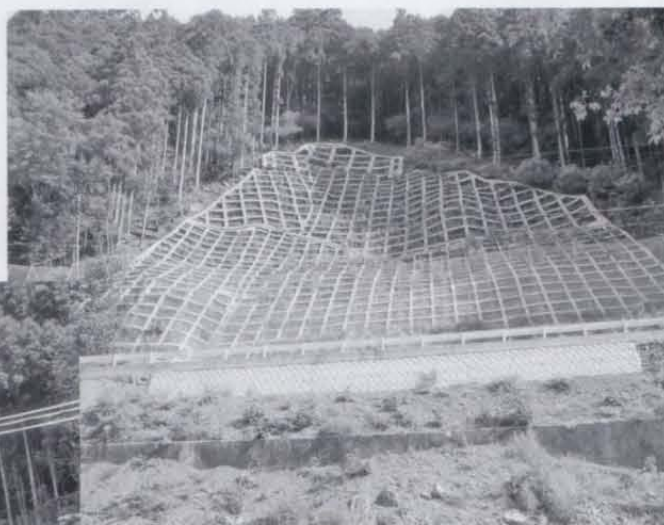
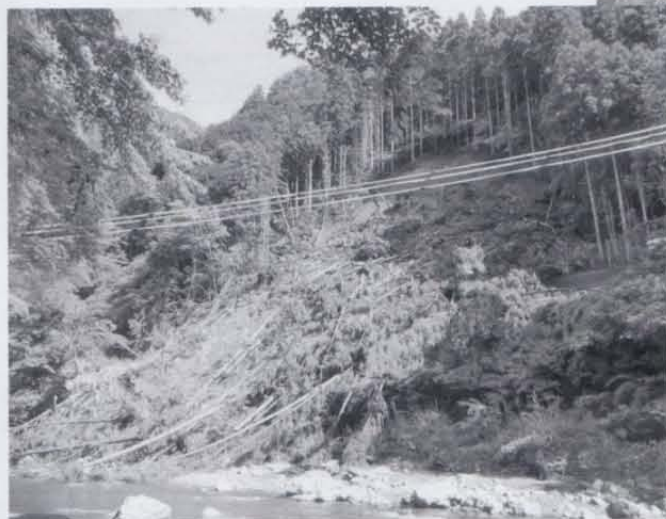


## 建設ギャラリー

工事名称	平成19年度H19災査定第1号(一)水窪森線(勝坂)道路災害復旧工事		
工期	平成19年11月21日～平成20年8月28日		
発注者	浜松市長 鈴木康友		
施工業者	小林建設株式会社		
工事箇所	浜松市天竜区春野町豊岡勝坂地内		
工事概要	復旧延長	L=58.2m	
	吹付法砕工	A=1966m <sup>2</sup>	
	グラントアンカー工	N=21本	
	鉄筋挿入工	N=184本	
	ポケット式金網工	A=510m <sup>2</sup>	
	ブロック積工	A=53m <sup>2</sup>	

本工事は、浜松市との間で締結した「災害協定」に基づく平成19年5月第1号出動要請による、応急対策工事の本復旧工事です。

(一)水窪森線は春野町と水窪町門桁地区を結ぶ大事な生活道路ですが、応急工事でも速やかに施行でき、本工事も通行に支障無く完成することが出来ました。



## 最近のキーワード



国土交通省は10年度から、地域建設業の活動領域拡大に向け、「建設業と地域の相互発展」を促進する事業に取り組む方針。地域の建設会社が地元の自治体や大学、研究機関などと連携し、耐震、維持管理、環境などの分野で本業を拡大させる場合に、事業の立ち上げ費用の一部を助成する。

また、地域の安全機能を維持するため、地域の複数の建設会社が共同で「除雪や災害復旧」などに取り組む場合にも助成を行う。地域のプラスになり、併せて自らの仕事にもプラスになる地域建設業の意欲的な取り組みを支援する考えだ。





## My Family

## 『幸せいっぱい』



森吉組(株) 吉田 巧

私は、今年の4月に、浜松八幡神社にて、結婚式を挙げました。八幡神社はかつて、徳川家康が三方原の合戦に敗れ、武田軍に追われて潜んだといわれる楠の木があり、幻想的な雰囲気のある神社でした。式はもちろん神前式に行いましたが、私自身3月4月は何かと忙しく、準備や打合せは全面的に妻に任せました。中途半端な協力は逆に喧嘩の基です。妻も理解があり、親族、友人、来賓の方々の協力の下、滞りなく無

事に式を終えることができました。来年には、待望の赤ちゃんが産まれることもあり、一層生活に、仕事に、気を引き締めなければと考えております。最近では、テレビで、子供の右脳教育や、子育ておぼあちゃんなど、赤ちゃんとからの教育方針が、マスコミで取り上げられています。少子化問題、環境問題などこれからの子育てや、子供の生活環境は大きく変化していくことが考えられますが、何より元気に産まれてきてくれたらな、と思います。

20代の頃、長野県伊那地方の会社に勤務していた時、伊那の街中の店のカウンタで飲んでいたら、「職業は？」と声をかけられた。その時「私は地球の彫刻師」と言って、建設業のことをそのように答えたことがあった。たまたまそれが縁で、木彫の彫刻家の長女と所帯を持つようになった。生まれ故郷に戻り、父のあとを継いで建設業に入り、昭和40年頃の災害復旧工事で、秋葉ダム左岸道路の崩土を取り除いていると、作業員が樺の古株を見つけ、何かなるかもしれないとダンブに積んで会社を持ち帰り、何年もそのまま放置してあったものを、あるときからすこしずつコツコツと磨き仕上げた作品です。昔は樺を伐採するに当たっては、樺が1週間以上根元を火で焼いて切ったという、それは伐採の折、鋸を入れていくと樺は割れを生じるからだといっていました。樺の樹齢は少なくとも2000年以上のもので、そんな経緯のある作品です。

## Coffee Break



竜川ふれあいセンター

(竜川市民サービスセンター)

中島 麻依さん

私は、竜川ふれあいセンターに異動してきて今年で2年目になります。地域の方々に親切にしたい。た。ふれあいセンターでの仕事は、地域の方々と接する機会が多く、そのことにとてもやりがいを感じています。

私がこの仕事をしているなかで一番大切だと感じているのは、「笑顔」と「気持ちのよいあいさつ」です。当たり前のことかもしれませんが、人と接する仕事には欠かすことのできないものであり、常に忘れないでいたいと思います。プライベートでは、野球観戦が好きです。運動するのはちよつと(かなり?)苦手なのですが、観る方は大好きです。休みの日は、プロ野球観戦やショッピングでリフレッシュしています。9月5日に結婚します。この紙面が出来上がった頃は「村松麻依」になっていたはずですが、変わらずよろしくおねがいします。(こ)



## お宝発見

シリーズ第8回 樺の置物  
(株)石川組 石川定男

(社)静岡県建設業協会の広報誌「けんせつ静岡」の「わが街ウォッチング」に浜松市天竜壬生ホールに掲載されています。アドレス → <http://www.sizkk-net.or.jp/magazine/235/>